

令和7年度第1回中央区地域支えあいづくり協議体(議事録)

日 時 令和7年7月17日(木) 午後1時30分～3時30分

場 所 中央区社会福祉協議会 3階会議室

次 第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 新任委員紹介
4. 各委員より報告
5. 議題
 - (1) 中央区高齢者施策推進室より報告
 - (2) 生活支援コーディネーターによる取組について
 - (3) 「支えあいのまちづくり協議体(第2層協議体)」実施報告
 - (4) 意見交換
「地域とのつながりが希薄な高齢者に向けたつながり作りの取り組みについて」
6. その他
7. 閉会

出席委員(敬称略：順不同)

射場 典子	聖路加国際大学 国際・地域連携医センターPCC 開発・地域連携室
鈴木 雅之	民生・児童委員協議会 京橋地域高齢福祉部会
高野 大輔	民生・児童委員協議会 日本橋地域高齢福祉部会
大矢 智子	民生・児童委員協議会 月島地域高齢福祉部会
中島 圭一	京橋おとしより相談センター
保田 奈奈	日本橋おとしより相談センター
石川 紫	月島おとしより相談センター
加久 哲也	中央区桜川敬老館孤立防止・生きがい推進担当
遠藤 馨	中央区浜町敬老館孤立防止・生きがい推進担当
岩崎 千春	中央区勝どき敬老館孤立防止・生きがい推進担当
古田島 幹雄	中央区社会福祉協議会 事務局長補佐
安部 信之	中央区社会福祉協議会 地域支援部ささえあい課長 (第1層生活支援コーディネーター)
田部井 久	中央区高齢者施策推進室長
阿部 志穂	中央区福祉保健部高齢者福祉課長

欠席委員(敬称略)

河内 武志 中央区福祉保健部介護保険課長

配布資料

資料 1	中央区地域支えあいづくり協議体運営要綱
資料 2	地域見守り活動団体（あんしん協力員会）募集中！
資料 3	災害時地域たすけあい名簿のご案内
資料 4	高齢者補聴器購入費用助成のご案内
資料 5	もの忘れ予防検診を受診しましょう
資料 6	粹なまち健康プロジェクト『健康状態把握事業』の実施について
資料 7	生活支援コーディネーターによる取り組みについて
資料 8	支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）実施報告

各委員からの報告：「最近の高齢者の生活の様子について」

【京橋地区】

- ・聖路加国際大学で行われているスポーツリハビリの講座は、平均20名程度、多い時には30名ほど参加しており、男性の姿も見受けられる。また、高齢者よりも若年の参加者、高

齢といつても元気な人の参加が多く、近隣の方、兄弟やご友人など、地域で友達になった人たち同士が誘い合って参加している。

- ・桜川敬老館は6月、3,100名の利用者、実利用者数633名になり数は回復傾向にある。

男女比は男性が746名、女性が2,354名で男性比率が低い。男性用の受け皿を変化させる必要があると考えている。映画鑑賞は、12名中男性は3名男性の来所があり、映画を見に来るだけなど目的がはっきりしている男性は来やすい催しだと感じた。

・7月中旬から8月頭にかけてリサイクルデーを開催する。年2回行っているので各所への広報をお願いしたい。

・社会福祉協議会ささえ課では区内の3拠点、区役所のツキチカ！、月島、勝どきの勝どきデイルーム、日本橋のはまるーむでおとなりカフェ・ちょっと相談会を行っている。6月は来所者が他月に比べ1割ほど減少傾向にある。このように引きこもりがちになる人がいることもあるので、集まる場所を作るという以外にも人と繋がれる場所を作っていく必要があると感じている。スマホの相談会をおこなうと男性参加率は良いが、用件が終わりしだい帰宅し再来が無いケースが多い。そういう方にはつながりをつくっていきたい。勝どきデイルームに晴海フラッグに入居した高齢者が何名か来たが、交流ができる場所が分からないという話が出た。晴海フラッグには多くの高齢者もいるという話は聞くがどのような人が住んでいるか分からない。その方々とどう繋がっていくか、どうアプローチしていくかが課題だと考えている。

- ・サンサンサロンという家族介護者向けのサロンを開催し、6名が参加した。

・高齢者当事者としての感覚では、民生委員だから高齢者クラブに入ったが民生委員でなければ高齢者クラブは入らなかった。高齢者クラブで歌やダンスを行うが男性高齢者としてはあまり良い印象ではない。横浜の施設で、ロックコンサートを開催していたが盛況だったとの情報を聞いた。

【日本橋地域】

・浜町敬老館は利用者数が増え、毎日100人以上の方が来所している。特徴的なのは入浴サービスの利用者はさほど増えてないが、新規や久々に来館した方がお風呂に入りに来るという機会が少し増えてきた様子である。来館が途絶えている方には電話連絡をしているが留守番電話か応答しない方が増えてきている。おそらく特殊詐欺の防止を前提に出ないか電話番号を登録しないという対処をしていると思われる。プログラムの中では、運動健康系は脱落率が低いと感じた。初めて来た人が「また来よう」と言ってくれることがあり、毎月一定人数来ている。

・栄養士の資格があるため栄養に関する講座を開いたが、その際に目的を明確にした「通いの場は長続きする」と感じた。通いの場で理学療法士から紹介のあったリハビリ効果のある体験型の機械は、メガネを付けて視界内外のオブジェクトをつかもうとする動作を行うことでフレイル予防を行うものであった。非常に魅力的なツールだが高価なため、通いの場での導入は断念した。

・日本橋おとしより相談センターでは6月に認知症サポーターの交流会を行った。交流会の意見交換の中で認知症の方への見守り方法や対応方法について話し合う予定だったが、自

分の見守りをしてほしいといった話や、見守りをされるにはどうしたらいいのかなどの話になった。また、区のサービス「緊急通報システム」やペットの見守りカメラなどは、基本的に家族がいる方向けのサービスで、独居の方は誰に見守ってもらうかなどの話が挙がった。

・敬老館は 60 歳から、おとしより相談センターは 65 歳からの利用となっているため、区で年齢を統一してほしい。おとしより相談センターという名前を 65 歳から使うのは抵抗があるため地域包括支援センターに戻してほしいという声があった。

・十思スクエアで通いの場を運営しているが、認知症の方がもうそろそろ来なくなるという時期に、「つまらなくなった」と話す傾向がある。その後実際に参加が途絶えると訪問を行っている。

・大伝馬町と小伝馬町は大河ドラマの影響でにぎわっている。特に土日は展示やスタンプラリーが盛況である。十思スクエアで若い女性がトイレを借りに来ている。目の前の会社の人々がハンカチだけ持ってトイレを使用する。そのため、区の施設として誰でも入れてくつろげるトイレができたらいいと感じた。また、アプリで誰でも使えるトイレがあるという案内ができると、落ち着いてくつろげる場になると感じた。

【月島地域】

・高齢者向けマンションの高齢者は元気がなく、認知能力が下がっていると感じた。男性向に元気に歌おうという会があり、参加者は元気に参加しているが、世代感が変わってきたと感じている。知っている歌や童謡も歌うが、フォークソングや合唱を行うと、すごく嬉しいように歌っている様子が見られた。

・勝どき敬老館では、運動講座など当日参加のものが数多くなり、多いと 1 日の利用者は 180 名ほどになる。60 歳になりすぐに登録する方も増え、仕事をしている方も多い。エアロビクス、ヒップホップベリーダンス、骨盤底筋トレーニングなど、ハードなプログラムも実施している。

・再開発によるマンションの建て替えで一時的に引っ越しが必要な方がいる。その中でも、高齢者の寄合の場に集まる機会がなくなったり、保証人がいないため新しい住まいが見つからなかつたりという問題がある。身寄りがいない方は住まいの問題だけではなく、入院や施設入所、金銭管理、死後事務などの手続きに関する不安があるとの相談を受けている。身元保証サービスは費用が高く安心してサービスを利用できる環境が整っていないという声も上がっている。そのため、成年後見制度や地域の相談窓口との連携は今後も必要になってくる。

・1 人暮らしや高齢者世帯がかなり多くなってきていていると感じている。月島おとしより相談センターでは昨年度から 3 ヶ月に 1 度ひだまりサロンを開催しており、地域住民と職員との交流を図っている。サロンの中でも男性高齢者が少ないことが課題には挙がっている。

・多世代交流を目的に保育園児と高齢者の交流会も予定している。前回は高齢者の得意なことを活かしてもらい高齢者にも参加しやすい交流会を開催できた。高齢者の得意なことを地域や交流の場で活かせるような活動があると男性高齢者だけではなく、地域の皆さんがあつ交流の場に来やすいと感じる。

- ・月島地区で開催しているサロンでは、一定数の参加者があつて元気に過ごしている様子が見受けられる。男性の参加者が4、5名来ていた時期があるが、現在は毎回一人くらいまで減っている。
- ・高齢者クラブに出向き、認知症の講座を開催した際に、自身の心配というのもすごく大きいが、家族としての悩みもありどちらの不安もある状況であることがわかった。

議題説明

- (1) 中央区高齢者施策推進室より報告
- (2) 生活支援コーディネーターによる取組について
- (3) 「支えあいのまちづくり協議体(第2層協議体)」実施報告
- (4) 意見交換(グループワーク)
テーマ：「地域とのつながりが希薄な高齢者に向けたつながり作りの取り組みについて」

【京橋グループ】

「現状と男性高齢者が施設に来るきっかけ」

[現状]

- ・仕事をしている人も多いため、なかなか来られない
- ・担い手の高齢化
- ・女性が多いためプログラムが終わると男性はすぐに帰ってしまう

[きっかけ]

- ・男性が興味のある話をする
- ・筋トレが目的で来てくれる人向けに筋トレや粹トレなどの開催
- ・男性が興味を示しそうなスポーツ大会、カラオケ大会などの開催
- ・男性だけの通いの場

【日本橋グループ】

「目的を持ったサロンが良い」

- ・日本橋地域の特性上、お祭りなどが多く、高齢者もよく参加している
→イベントの担い手になってもらうことで社会参加をしてもらう
- ・複数回、複数の主催による、食に関するイベントを開催する
→単発で終わってしまうと、再来につなげられず、同じ主催になると集まる人が偏るため
- ・多様な場所で集まれるようにする
- ・他人の知らない知識を発表してもらうような講座を企画して、それに参加していた高齢者に今後は講師をしてもらい社会参加をしてもらう
- ・男性高齢者と、子供が触れ合いをする機会が設けられる場作り
- ・勝負事や食とお酒が男性受けの良い題材である

【月島グループ】

- ・マンションが多く、隣に誰が住んでいるか分からぬいため繋がりが薄くなっている。マンションの管理人からの通報などがあり初めて家の状態を知るということが多くあった。他地域同様、地域に出る高齢者は少なく、特に男性が地域に出てこられない。
 - ・退職すると地域に出てこられなくなってしまう。
- 男性の多くは仕事をしていたので、それを活用し地域に繋がれるような活動や興味のある分野に繋げることが良い。例としては歴史に詳しい方に歴史のガイドをしてもらう、IT関係のお仕事を活かしシルバー人材センターに登録してもらいスマート教室を行うなどが挙げられた。もしくは社会福祉協議会の事業であるスマートささえ隊などのボランティアに繋げ自分の得意なことを生かして役割を持つてもらう、やりがいを持つてもらうことで地域に出てきやすくなる。
- ・世代が変化しているため、その世代に合わせてロックやディスコなどのジャンルを取り入れる
 - ・男性に合わせていくならば昭和のスターや野球選手などのジャンルを設け、世代を合わせてこちらから何か繋がりを作る。

総括

- ・対象の方に合わせるという当たり前のこと改めてすごく大事だということを感じた。
- ・お年寄りという枠でイメージする方々に向けたプログラムが多くなるが、その枠からこぼれ落ちるような、なかなか参加しない男性の方々のニーズに合わせることも大切。
- ・役割を担い地域に貢献していた方が、年老いてきたらサポートを受ける側に回るという状況は、地域の中での支え合いが行えていると言えるのではないか。
- ・行政や他の団体等の取り組みや地域の資源の情報をまとめたり男性向けに発信したりすると、必要な方にその情報が届きやすくなると感じた。